

結核の治療並びに発病防止に使用する

結核死菌免疫元の実験

(その続報第2)

北里研究所

桑原 忠実・矢島 正

(昭和28年3月19日受付)

1 緒 言

結核第27巻第1号に記述せる如くわれわれは結核患者の「ツ」反応陽性強陽性者は勿論結核発病者の軽・中等症中の稀なる「ツ」反応陰性者及び健康者の陰・陽・強陽性者に対し結核死菌免疫元を使用した。これ等の者に数十回連続接種しても障害又は悪性の副作用もなかった。なお以上発病者に接種すると、その接種局部に結節化膿潰瘍形成し、同時に健康者の「ツ」反応陰性者及び発病者の稀なる「ツ」反応陰性者は陽性・強陽性に転じ、なお第3期と思われる患者で稀なる陽・強陽性反応者にも接種してその局部に結節化膿潰瘍形成し良好の患者も数名認めた。以上いずれも接種後、喰菌率増加して健康者は予防に効果あり、発病者は良好に経過するのを認めた。しかし第3期患者は「ツ」反応陰性者多く、この者にも幾数十回接種するも障害はないか接種後は「ツ」反応陽転せず又接種局部にも結節化膿潰瘍形成せず、従つて喰菌率も増加せず予後不良の者が多い。なお接種局部の結節化膿潰瘍形成についての治癒的論拠は「結核」或いは学会において数回述べたように、人型結核死菌よりくる無害の慢性結核性潰瘍に因つて起りこれ等の形成の遅速及び形成の難易はその発病経過後の期間並びに疾病軽重又は治癒の難易等を計り知る一つの暗示的尺度となり、形成する化膿潰瘍に対しても絶体危惧するの要がない。ここには最近用いられる化学薬品すなわち「スト」、「パス」、「チビオン」、「ヒドラ」並びに気胸及び外科手術等の治療中又は治療後未だ治癒に達し得ず、諸種の副作用ある患者又は以上治療後の再発患者に死菌免疫元を使用し、良好な結果を認めた二、三の患者について記述しようとするものである。

2 実験成績(第1表参照)

a) 結核死菌免疫元について

われわれの結核死菌を使用した患者は、未だ種々の治療を施さず、又長期安静者もあつたが、未だ治癒に達せざる患者である。なお結核死菌免疫元の治療後は何等の治療も施さずして治療後10年内外、5年内外或いは2年内外良好にして「ツ」反応は接種直後と同じく陽・強

陽性転化を保持し、赤沈も良好、喰菌率は80%内外で臨床及び「レ」線所見等も治癒状態にて今なお健康回復して10年内外の者は普通勤務、5年内外及び2年内外の者は過労並びに重労働をさけて徐々に勤務中である。

なお以上の治癒患者は治癒後1カ年、或いは2カ年内外過労、重労働をさけて、身体を保護しつつこれを厳守した者である事を附言する。この種の治癒患者も多数あるが、これを割愛してここには、その二、三を第1表に示し、「レ」線写真も併せ示す。

b) 「スト」、「パス」、「チビオン」、「ヒドラ」の化学薬品の治療後、及び気胸療法後の再発者、又は治療中、未だ治癒に達し得ぬ者、並びに外科手術中止の患者について

われわれは上記の化学薬品、並びに気胸療法の患者が、いずれも、治療中又は後、種々の副作用を起し、また、未だ治癒に達せずして再発した者、或いは外科手術中止の患者に対し「ツ」反応の陽・強陽性者は勿論、その他赤沈・喰菌率・喀痰・一般臨床所見・「レ」線所見等を細密検査の上疾病治癒、及び再発の有無を確認し、結核死菌免疫元を使用して、使用後その接種局部に結節化膿潰瘍形成し、又稀なる未形成者もともに良好を認め、今現に過労・重労働をさけつつ健康状態にて徐々に勤務中である。更に気胸療法中止後肋膜癒着等に対してはなん等の障害もなく回復した。これも良好なる患者数名あるが、ここにその二、三の者を第2表及び「レ」線写真で示す。

3 結 論

以上実験のように結核死菌免疫元「ワクナール」は使用し易く、健康者は勿論、発病者の軽・中等症患者、又は種々の合併症者に数十回使用しても何等の副作用も、危惧すべき作用もなく、短期間すなわち4、5ヵ月内外で良好に向う。なお軽症者の如きは早期治療に因りなお一層短期間で良好な者が多い。接種局部の結節化膿潰瘍形成は疾病治癒の基礎とも云うべき一つの良現象である。因つてこれを使用する際は適応症等の考慮の要がなく、「ツ」反応の陽・強陽性者に主として使用を望む。し

第1表 結核患者に対し治療剤として結核死菌免疫元「ワクナール」を使用後10年・5年・2年各内外の経過

治療前並びに治療後 10 年内外経過後における一般症状

氏名	性・年齢	病名	治療日数	ツ反応		赤沈		噴菌率		結核菌		レ線		接種局節濃揚成形の状況		臨床所見		治療後の日数	現在の状況
				注前	注後	注前	注後	注前	注後	注前	注後	注前	注後	治療前	治療後	治療前	治療後		
■	男一六才	肺結核	八ヵ月	20	20	75	5	20%	78%	G ₈ (-)	右側陰影	消失	無数形成	瘰癧少し	痰血・血痰・不正・ラッセル(+)	消失良好	一三ヵ年	健康状態	
■	男一七才	同上	七ヵ月	18	20	50	8	30%	65%	G ₀ (-)	左側陰影	消失	〃	〃	呼吸音不正	同上	一二ヵ年	健康状態	
■	男一六才	肋膜結核	六ヵ月	17	18	60	5	25%	70%	G ₀ (-)	右側陰影	右側肋膜部	〃	〃	呼吸音弱	右側胸部	一〇ヵ年	健康状態	
■	男一〇才	小児結核	五ヵ月	16	18	50	/	30%	65%	G ₂ (-)	左側陰影	消失	〃	〃	左側肺尖部	良好	一〇ヵ年	同上	

治療前並びに治療後 5 年内外経過後の一般症状

■	男一九才	肺結核	五ヵ月	20	20	18	6	20%	55%	G ₀ (-)	左側陰影	消失	〃	〃	呼吸音不正	〃	四ヵ年	同上	
■	男一〇才	頸腺結核	四ヵ月	20	20	25	3	20%	70%	/ /	無数	左右頸部	消失	〃	〃	両側頸部腫	消失	五ヵ年	同上
■	男四五才	肺結核	八ヵ月	18	20	65	10	30%	80%	G ₀ (-)	両側陰影	減退	〃	瘰癧著明	痰血・血痰	良好	四ヵ年	健康状態	
■	男四〇才	同上	六ヵ月	17	18	68	8	20%	70%	G ₁ (-)	右側陰影	消失	〃	〃	痰血・血痰	〃	五ヵ年	健康状態	
■	男二三才	同上	四ヵ月	19	20	35	10	15%	65%	G ₀ (-)	左側陰影	消失	〃	〃	時々微熱	〃	五ヵ年	同上	

治療前並びに治療後 2 年内外経過後の一般症状

■	男七才	肺浸潤	四ヵ月	17	20	35	5	20%	70%	(-)(-)	左側陰影	消失	〃	〃	痰血・血痰・全身衰弱	良好・消失	二ヵ年	健康状態
■	男三七才	肺結核	八ヵ月	20	20	68	30	30%	80%	G ₀ (+)	左右陰影	稍消失	〃	〃	痰血・血痰・全身衰弱	良好	二ヵ年	健康状態
■	男一二才	小児結核	四ヵ月	17	18	50	10	25%	70%	G ₀ (-)	左側陰影	消失	〃	〃	痰血・血痰・全身衰弱	良好	二ヵ年	同上
■	女二四才	肺結核	九ヵ月	6	18	78	50	/	80%	G ₀ (+)	左右陰影	消失し難し	〃	〃	痰血・血痰・全身衰弱	良好なるも	一ヵ年	徐々に家事手伝い
■	男一八才	同上	四ヵ月	18	20	8	3	30%	75%	G ₂ (-)	右側陰影	消失	無数形成	〃	痰血・血痰	良好	一ヵ年	健康状態

第2表 肺結核患者に対する外科手術及び気胸療法中止、又は化学並びに安静療法等の合併治療後の未治療者に対する結核死菌免元の使用後の状況

患者氏名	結核死菌「ワクナール」接種前の一般症状										結核死菌「ワクナール」接種後の臨床所見										備考
	発病後治療までの日数	接種前の処置	臨床所見	「レ」線所見	結核菌	ツ反応(m.m)	赤沈(m.m)	咳菌率%	栄養	結核死菌接種回数	臨床所見	結核菌	ツ反応(m.m)	赤沈(m.m)	咳菌率%	栄養	遺形形成	消化腺部分	「レ」線所見	治療日数	
二女 十六才	二カ年半	150g ストス 1カ年 2カ年 手術中止	咯血・血痰・微熱・盗汗・衰弱呼吸音不正	左側肺尖以下第3肋間及び左側肺門部の陰影	(++)	20	75	25	不良	結核死菌 1号10回 2号30回	一般良好 家事勤務 治療後4カ年	(-)	20	20	70	肥満良好	無数形成	良好	5カ月		
二女 十三才	半カ年	80g ストス 半カ年 手術中止	咳嗽・咯痰・血痰・類発熱・貧血・呼吸音鋭利	右側第2肋間以下第5肋間並びに両肺門部の陰影	(+++)	18	78	18	中等	1号10回 2号25回	良好 家事勤務 治療後1カ年半	(+)	18	30	80	良好	無数形成	不変	4カ月		
二男 二十二才	一カ年	絶対安静 治療1カ年 手術中止	時々血痰 全身微熱 貧血・盗汗	右側肺尖以下第6肋間及び左側肺門部の陰影	(+)	17	50	20	中等	1号10回 2号30回	良好 家事勤務 治療後4カ年	(-)	20	3	65	肥満良好	無数形成	良好	5カ月		
四男 十五才	一カ年半	100g ストス 1カ年 手術中止	血痰頻発・咯血・微熱・貧血・盗汗・咳嗽頻発	右側肺尖以下第4肋間陰影 左側第2肋間以下第5肋間	(+++)	18	70	30	中等	1号10回 2号35回	良好 治療後3カ年	(+)	20	10	60	肥満良好	無数形成	良好	6カ月		
二女 十六才	一カ年半	1カ年入院 治療気胸 1カ年	稀に血痰 盗汗頻発 貧血	右側第2肋間以下第4肋間陰影	検査出得 (-)	20	50	25	中等	1号10回 2号25回	良好 家事勤務 治療後1カ年	(-)	20	20	70	良好	無数形成	良好	4カ月		
十七才男	一カ年	気胸1カ年 手術中止	時々血痰 盗汗 微熱	右側第2肋間以下第4肋間陰影	(+)	18	5	22	良	1号10回 2号20回	良好 通学中 治療後半カ年	(-)	20	3	75	肥満良好	無数形成	良好	4カ月		
二女 十一才	半カ年	安静療養 半カ年	咳嗽・咯痰・稀れに血痰 貧血・衰弱呼吸音鋭利	左側肺尖以下第3肋間陰影	(+)	20	30	20	良	1号10回 2号20回	良好 家事勤務 治療後2カ年	(-)	18	15	60	肥満良好	も形成 結核も形成 三痰す無数	良好	3カ月半		
三男 十二才	二カ年	安静療養 2カ年	咳嗽・咯痰・時々血痰 貧血・衰弱呼吸音不正	両側肺尖以下第5肋間並びに第4肋間陰影	(+++)	6	65	30	不良	1号10回 2号35回	良好 治療後半年	(+)	17	20	65	良好	も形成 結核も形成 三痰す無数	不変	5カ月半		
二女 十五才	一カ年半	気胸半カ年 手術中止	咯血・血痰頻発 貧血・咯血・咳嗽頻発 呼吸不正	右側肺尖以下第3肋間及び左側第2肋間以下第4肋間陰影	(+++)	5	80	25	不良	1号10回 2号40回	良好 治療後1カ年半	(+)	23	30		良好	形三化 成四潰 一毒	良好	4カ月		
二女 十三才	一カ年	気胸3カ年 手術中止	時々血痰 盗汗・咳嗽・咯痰 呼吸音不正鋭利	左側第2肋間以下第5肋間陰影	(++)	20	60	20	中等	1号10回 2号20回	良好 治療後半カ年	(+)	10	50		良好	無数形成	良好	3カ月半		

第 1 図

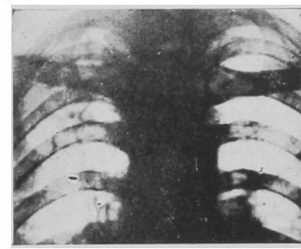
注射前 (a)

注射後 (b)

1

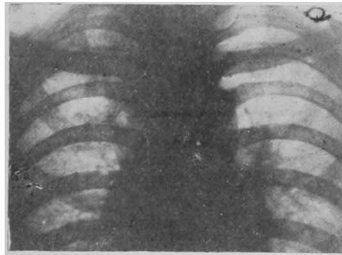


- a) 16 才 男
撮影 14 年 5 月 1 日, 結核菌 G9, 陰菌率 3%, 赤沈 70mm, ツ反 20mm, 衰弱, 血痰, 時々咯血, 発熱,
b) 31 才 男
撮影 28 年 2 月 2 日, 結核菌(-), ツ反 20mm, 赤沈 5mm, 現在健康, 普通勤務

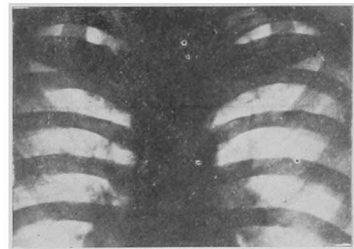


治療後十五年

2

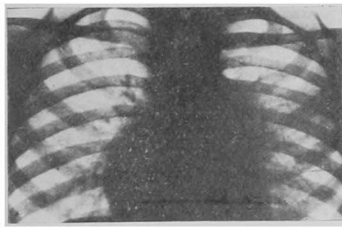


- a) 25 才 男
撮影 24 年 2 月, 結核菌 G1, 陰菌率 20%, 赤沈 56mm, ツ反 20mm, 血痰, 咯血, 衰弱, 微熱, スト 50g 手術中止
b) 25 才 男
撮影 24 年 9 月, 結核菌(-), 陰菌率 75%, 赤沈 10mm, 接種部結節化膿潰瘍無数, 現在健康, 普通勤務, 結核菌(-)

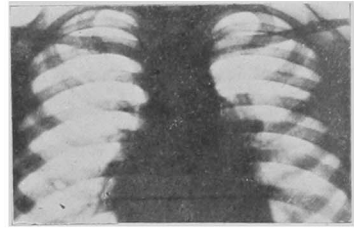


治療後四カ年半

3



- a) 7 才 男
撮影 24 年 2 月, 結核菌(-), 陰菌率 18%, 赤沈 45mm, ツ反 18mm, 微熱, 時々血痰, 衰弱, パス 3カ月中止
b) 7 才 男
撮影 24 年 5 月, 結核菌(-), 陰菌率 55%, 赤沈 5mm, ツ反 20mm, 接種部化膿潰瘍無数形成, 現在健康, 通学中

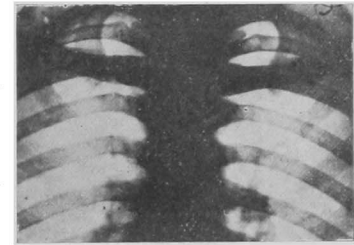


治療後四カ年半

4



- a) 22 才 男
撮影 25 年 10 月, 結核菌 G3, 陰菌率 25%, 赤沈 60mm, ツ反 20mm, 血痰頻発, 咳嗽, 咯痰, 微熱, スト 30g, 気胸 1 カ年手術中止
b) 23 才 男
撮影 26 年 4 月, 結核菌(-), 陰菌率 70%, 赤沈 7mm, ツ反 20mm, 接種部結節, 化膿潰瘍形成無数, 現在健康, 勤務中, 結核菌(-)



治療後二カ年

5



- a) 45 才 男
撮影 23 年 7 月, 結核菌 G8, 陰菌率 30%, 赤沈 75mm, ツ反 20mm, 血痰, 時々咯血, 微熱, スト 80g, 手術中止
b) 46 才 男
撮影 24 年 2 月, 結核菌 G2, 陰菌率 80%, 赤沈 18mm, ツ反 20mm, 接種部結節化膿潰瘍形成無数, 現在健康, 勤務中, 現在結核菌(-)



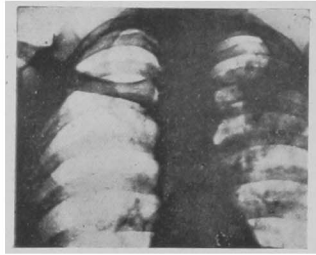
治療後四カ年半

(備考) 手術及び気胸中止は患者並びに同家族と共に自発的中止, なお「スト」「パス」は死菌免疫元接種前の治療にて同接種中は全部中止を命じたり。但し疾病経過中高熱, 咳嗽, 血痰頻発又は胃腸障害のため全身衰弱の徴あるときは「ストマイ」3gr 以上 5gr 位を限度としてこれを使用し以上の諸症状減退消失を観察しつつ死菌免疫元接種を続行せり

注射前 (a)

注射後 (b)

1



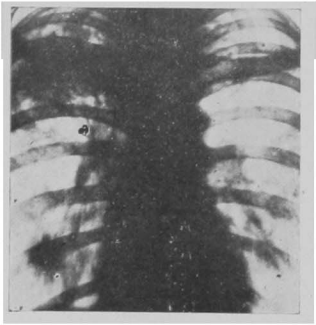
27才男, 撮影 26年 10月
結核菌 G2, 陰菌率 30%, 赤沈 55mm, ツ反応 18mm, 微熱, 時々血痰, 氣胸 6カ月, 手術中止



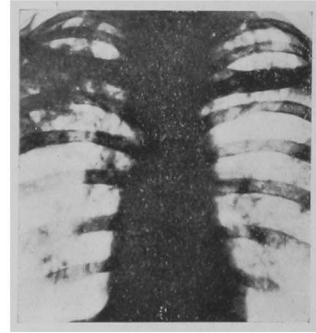
治療後一カ年半

28才男, 撮影 27年 12月
結核菌(-), 陰菌率 50%, 赤沈 10mm, ツ反応 20mm, 接種部結節化膿潰瘍無数形成, 現在健康徐々に復舊中, 結核菌 5

2



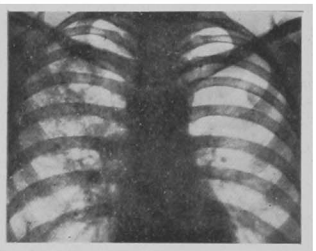
28才男, 撮影 25年 5月
結核菌 G3, 陰菌率 30%, 赤沈 75mm, ツ反応 4mm, 微熱, 咳嗽, 痰痰, スト 80g, パス 6カ月氣胸 1カ年, 手術中止



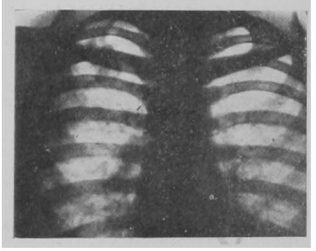
治療後二カ年半

28才男, 撮影 26年 2月
結核菌(-), 陰菌率 80%, 赤沈 15mm, ツ反応 15mm, 接種部結節化膿潰瘍無数形成せず, 回復状態にて徐々に復舊

3



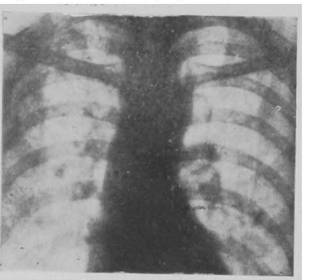
23才女, 撮影 25年 1月
結核菌 G2, 陰菌率 20%, 赤沈 75mm, ツ反応 18mm, 微熱, 血痰, 衰弱, スト 100g, パス 1カ年, 氣胸 6カ月, 手術中止



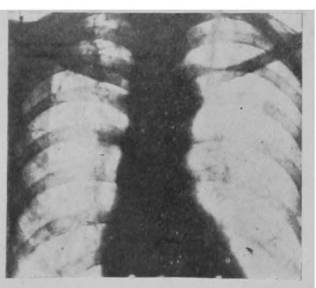
治療後三カ年

23才女, 撮影 25年 7月
結核菌(-), 陰菌率 60%, 赤沈 20mm, ツ反応 20mm, 接種部結節化膿潰瘍無数形成, 回復, 家事従事中, 現在結核菌(-)

4



30才男, 撮影 23年 3月
結核菌 G5, 陰菌率 30%, 赤沈 68mm, ツ反応 20mm, スト 40g, 氣胸中止, 咳嗽頻発



治療後五カ年

30才男, 撮影 23年 11月
結核菌 G2, 陰菌率 80%, 赤沈 10mm, ツ反応 20mm, 接種部結節化膿潰瘍無数形成, 現在健康, 普通勤務, 結核菌(-)

かし前記の諸化学薬品は種々の副作用なり、又気胸療法・外科手術の如きは治療に際して厳密な適・不適の診断を必要とし、その技術に困難なる場合も多く、この適応症の誤診の場合は極く少ないが、危険の状態に陥る者もあり得る。しかし適応症の完全なる治癒患者は良好を認める者多く、また化学療法もその使用方法の転換により治癒者もあるが、向後の使用方法転換並びに気胸・外科手術等の技術も、諸学者の実験研究に因りなお一層多数の治癒患者を認める時期の遠くないことを信ずる。しかしながら結核免疫元は「コッホ氏」の結核菌発見以来、同氏とともに故北里先生始めわが国の諸学者も多年種々

なる免疫元の発表がある。われわれは数年前より他の多様な治療及び結核免疫元治療とともに比較実験研究して来たが、去る昭和14年前より減毒を合理的に処理し得る死菌免疫元を使用し、動物(「ラッテ」猫)人体内に反復接種後、結核菌に対する喰菌埋滅現象が徐々に増加する事の実験により結核発病防止並びに発病者の良好を認めた。なお大阪市和田博士も数千人の結核患者に対し良好の成績を北研へ報告す。

文 献

- 1) 和田栄一：北研に対し報告を私見す。
- 2) 桑原忠実：結核，第27巻，第1号，16，昭27。

結核医のための

結核文献の抄録速報

こんな便利な雑誌のあることを御存知でしょうか？ 毎月どんな文献が発表され、世界の研究がどのようなか、又一つのテーマで過去の文献に逆つて調べる必要のある時、本誌はあなたに貴重な時間の節約を齎し、労力の煩しさをはぶく、いわば助手の役割を果たすでしょう。又毎月1編の資料速報は、世界で今日、最も注目されなければならない結核のトピック・ニュースを速報いたしております。是非御利用下さい。

抄録雑誌	国内	外国
	一四五誌	三七誌

6ヵ月 900円
1カ年 1800円
(〒 共)

財団法人結核予防会

東京都千代田区神田三崎町1の2の4
電話(25) 0089, 0629, 3223, 振替東京3320